

経営比較分析表（令和5年度決算）

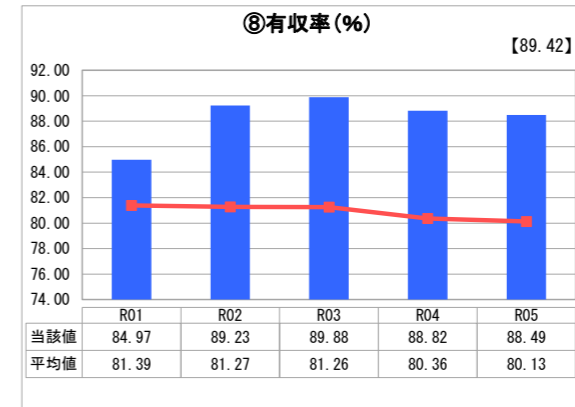
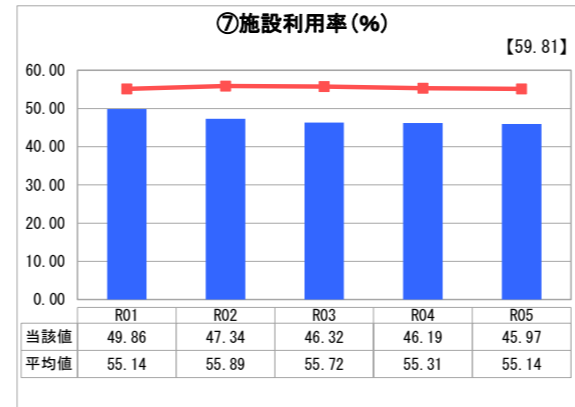
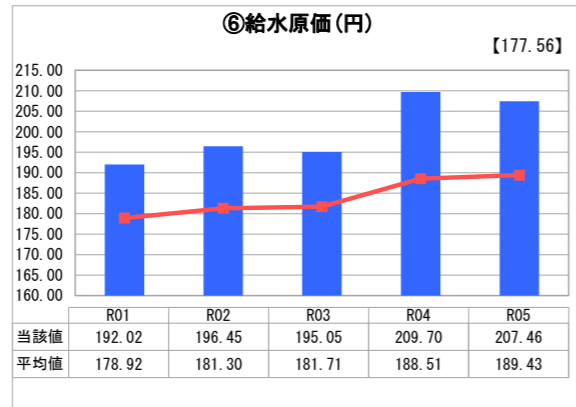
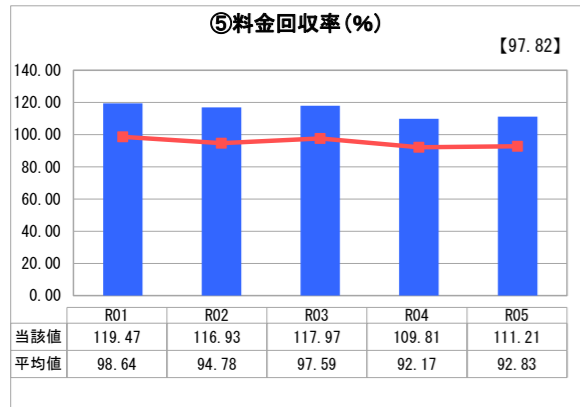
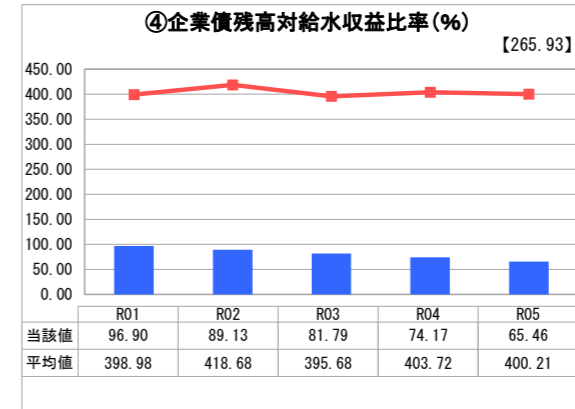
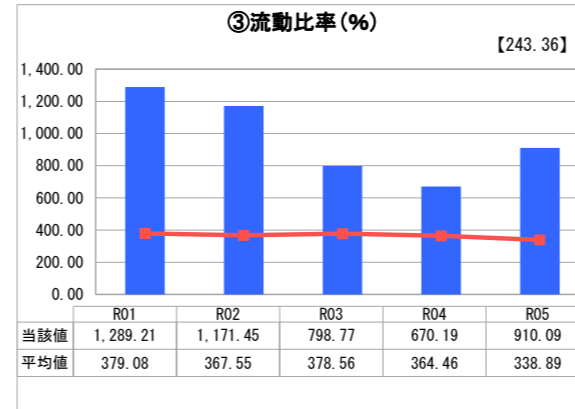
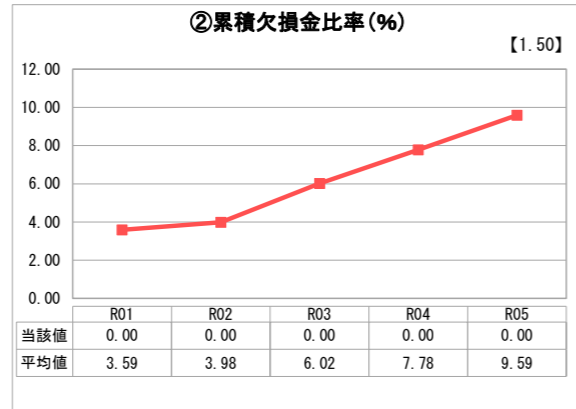
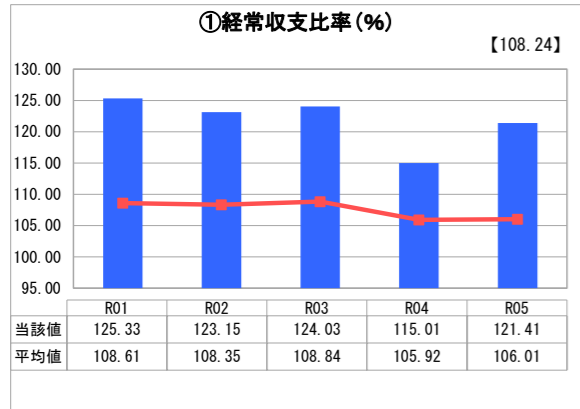
山形県 最上川中部水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	民間企業出身
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	86.99	99.99	4,700	

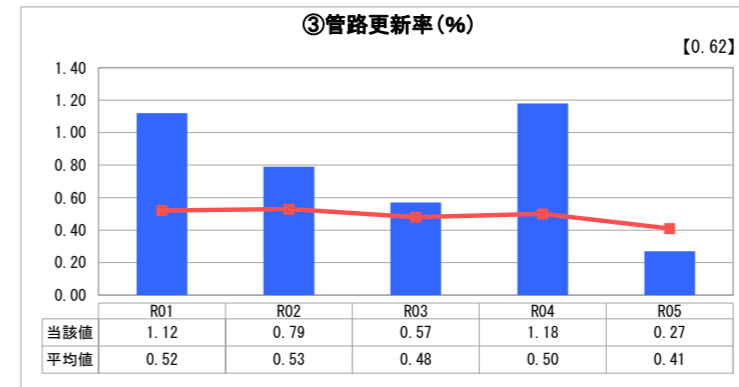
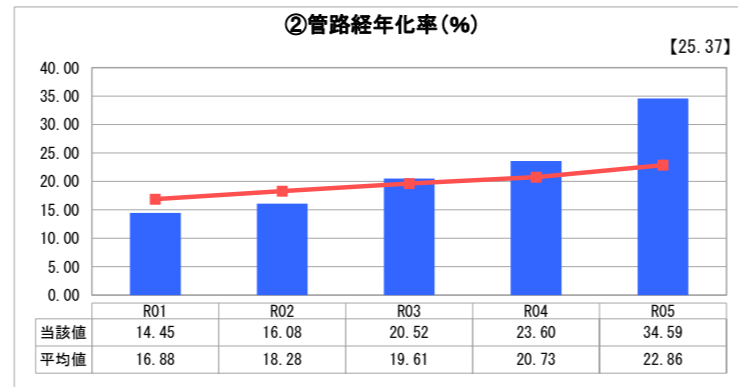
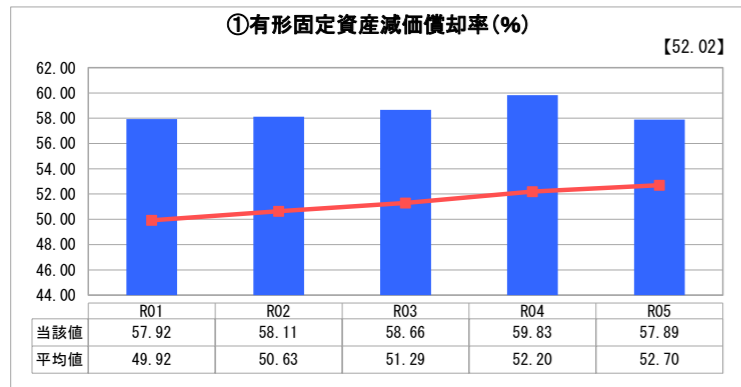
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
25,140	41.32	608.42

グラフ凡例		
■	当該団体値(当該値)	
—	類似団体平均値(平均値)	
【	令和5年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和5年度においても、経常収支比率は100%を超えており、累積欠損比率もないため健全経営を維持できている。前年度に比べ6.4ポイント上昇していることから、費用削減等に努めた結果である。流動比率については未払費用を極力抑える方針であるため、前年度に比べ239.9ポイント上昇し、引き続き現・預金は十分に確保されている。企業債残高対給水収益比率は、新規借入がなく、年々企業債の償還が進んでいるため全国平均・類似団体数値と比べ低い状況である。今後、施設更新需要に併せ借入を適宜検討していく。料金回収率は引き続き100%を超え、料金収入は確保できているが、給水原価が年々増加傾向にあり、維持管理費等が検討課題であるが、優先順位を考慮しながら適切に対処していく。施設利用率についてはほぼ横ばいの傾向だが、類似団体等と比べ低い状況である。施設の更新時期にあわせてダウンサイジングも検討していく。有収率については昨年度と比べ0.33ポイント低下したが、同程度の数値を維持できている。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、今年度微減したものの、全国平均・類似団体の数値より超えており、施設更新等が課題である。管路経年化率については、前年比10.99ポイント上昇した。これは令和5年度において耐用年数に達した配水管が増加したためである。上記の有形固定資産減価償却率と併せ、老朽化が顕著であることから、適切な管路・施設更新が必要である。

全体総括

令和5年度決算においても経常収支比率等が前年同水準を保ち、健全経営を維持できているが、管路・施設の老朽化・維持管理費の増加等、課題が山積みである。現状においては各事業計画に基づき管路更新・施設の修繕等を行っているが、現状に鑑み短いスパンで事業計画の見直し等も検討し、適切に対処していく必要がある。また、これらの課題に対処するため、広域化や施設の共同化なども検討し、経営基盤の強化を図っていく。